

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171600143
法人名	医療法人 透現
事業所名	グループホーム 白い石
訪問調査日	平成19年12月20日
評価確定日	平成20年2月26日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171600143		
法人名	医療法人 透現		
事業所名	グループホーム 白い石		
所在地	佐賀県杵島郡白石町福吉1808 (電話) 0952-71-5188		
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年12月20日	評価確定日	平成20年2月26日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6.9 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
------	--------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	290 円
	夕食	290 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.82 歳	最低 75 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤井整形外科
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

見渡せば田園が広がり、農作業が見える中で四季の移り変わりが感じられる。広い庭には山羊を放し飼いにし、動物とのふれあいが癒しとなり、自然環境を取り込んだゆっくりとした暮らしが窺える。ホームでの生活は、一人ひとりの個性を尊重しており、趣味や特技を活かした支援により、入居者の笑顔やいきいきとした表情につながっている。家族への近況報告や連絡を密に行い、信頼関係の構築に努めている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題の内、パンフレットの作成や、薬品の安全管理、嚥下体操の取り組みなど、改善できることから行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	災害時の地域の協力体制は、ホームとしての課題と考えているので、法人にも働きかけていく事を検討している。居室環境や、個別の関わりなども改善したいと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は行政関係や、地域の民生委員、区長の他家族等の参加で行われており、自己評価、外部評価の内容を報告したり、スライドで入居者の生活状況を説明するなど、現在はホームを理解して頂くという段階である。今後、気軽に意見交換ができる場として定着する事が期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が直接苦情を申し出にくいことを考慮し、併設施設への相談や、意見箱の活用などについて、機会を設けて伝えている。家族会を年3回開催し、積極的に意見を聞くなど信頼関係づくりにも努めている。又担当の職員が近況報告を定期的に郵送することで、家族の安心感へつなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩に出かけた時に気軽に挨拶を交わしたり、近所の農家より野菜を頂くなど、日頃から地域との関係ができていく。併設の老人保健施設の取り組みとして、ボランティアの受入や、老人会の出し物があり、ホームとの共通行事となっているが、今後はホーム独自でも、受入を検討したり、地域の行事に参加するなど、一層の交流が期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく 楽しく ほがらかに」「ゆっくり のんびり その人らしく」とホーム独自の理念を掲げ、職員が一丸となり、取り組んでいる。	○	これまでの理念に加え利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを考えるサービスとして、地域との関係性を重視した地域密着型サービスとしての役割を反映した理念の作成も期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者に対する日頃の関わりにおいては常に理念を意識して取り組んでいる。	○	全ての職員が理念を正しく理解、共有し、理念の具体化に向けた確認や振り返りの為の話合いの更なる充実を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩に出かけた時に気軽に挨拶を交わしたり、近所から野菜を頂くなどの関係ができています。又地域の魚屋さんがホームで店を開き、入居者が食材の買い物をされるなど日常的な付き合いがある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義を理解し、外部評価時にアドバイスを受けたことで、パンフレットの作成に取り掛かったり、薬品の安全管理や、嚙下体操の取り組みなど具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政関係や地域の民生委員、区長のほか家族等の参加で行われている。自己評価、外部評価の内容を報告するなど、ホームを理解して頂いているという段階ではあるが、地域の理解と支援を得るための貴重な機会として位置付けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	4ヶ月ごとに介護相談員の受入をしているが、市町村と行き来するまでの機会はできていない。	○	運営の実態を共有し町の理解や支援を得る為にも一層の協働関係の構築が期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へホーム便りや金銭出納帳の報告を毎月郵送している。又担当職員が近況報告書を作成し、写真を添えて発送したり、状況により電話で伝えるなど、関係の構築に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が直接苦情を申し出にくいことを想定し、併設施設への相談や意見箱の活用なども、機会を設け伝えている。又家族会を年3回開催し、一緒に食事をしながら積極的に意見を聞くなど信頼関係づくりにも努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームが開設されて6年半だが、異動や離職する職員が殆ど無く、馴染みがあり安心できる関係ができている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通じて、全職員が研修を受ける事ができ、その報告会を行っている。また日常的に管理者がケアを行いながら職員を育成している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地区の他のホームとはネットワークができ、意見を聞くなど交流ができています。グループホーム協会に入会し、勉強会への参加で質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染みながらの利用として、短時間の利用による体験入居をしてもらったり、在宅からの入居時には、訪問をして理解を得るよう努めている。入居後は個別のコミュニケーションに努め、なるべく家族の面会をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食材の買い物や毎日の料理を一緒に作ったり、趣味を活かし、いきいきとした生活をしてもらうなど、入居者ができる事を自然に取り入れ共に暮らす様子が窺える。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントや、日々の記録から入居者の希望の把握に努めている。職員が入居者の意向を確認しながらケアが行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族の意見を聞きながら作成している。職員が共に暮らし、思いを受けとめ、利用者本位の介護計画となるように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期及び、状況の変化に応じて作成している。又月1回はモニタリングを行い、確認をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別の買い物や通院などの外出支援は柔軟に対応している。併設のデイサービスへ囲碁を打ちに行くことを楽しみとされたり、日頃のケアも連携をとり協力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医など、個々の希望に応じた医療機関を選んで頂いており、情報提供等、連携を取りながら関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、家族と終末期のあり方について話し合いをしている。併設の老健施設への入所も含め家族等が納得の行く方向で検討している。医師との情報共有にも努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護については指針を作成し、全職員に周知している。言葉かけ等、入居者の尊厳については、併設施設と接遇についての勉強会や委員会の開催など、職員の育成に努めており、職員の言葉かけは穏やかで優しさが窺える。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のお茶の時間に、今日1日の過ごし方を聞いて、できるかぎり希望に添うよう努めている。習字、塗り絵、計算ドリルなど思い思いに時間を過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の魚屋さんより食材の買い物をして、下ごしらえ等できるを手伝ってもらいながら料理をされている。職員も同じ食事を共に食べながら、さりげなくケアをしている。食事はゆっくりと、昔話に花を咲かせながら楽しみのある時間となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のタイミングに合わせて入浴を勧めている。希望があれば毎日でも入浴する事ができる。	○	できれば本人の希望を確認し、夜間入浴の必要性や改善点の有無を把握するなど、職員の更なる意識向上が期待される。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を把握し、能力を活かした役割や活動を取りいれている。それぞれの楽しみや得意なことなどを計画に取り入れて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩などを希望される方にはできるだけ外出の機会を作っている。併設施設の入所者や通所サービスを利用される方との交流の機会も楽しみとなっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放されいつでも気軽に出入りできるが、玄関にいたるまでの外周フェンスは施錠されている。	○	併設施設との関係もあり外周フェンスは施錠されているが鍵をかけない自由な暮らしを支援するための検討が期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難訓練マニュアルを作成し、訓練は定期的に行われている。又消防署の指導を受け、非常用食料の準備もしている。	○	職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、運営推進会議の協力も得ながら地域住民の参加を得た避難訓練の実施にも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスについて把握できている。本人の状況によっては、医師からの指示を仰ぎ実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は自然の光を取り入れ明るく、入居者は居心地よく過ごされている。家具も家庭的で、ソファは自由に腰掛ける事ができるように配置され居場所の確保ができています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれに座椅子や布団など好みの品を準備されている。家族の写真や自分の作品を飾り、畳敷で和を取り入れ落ち着いた空間となっている。		